朝鮮日報

定價 壹ヶ月金參拾錢 郵稅ハ前金ヲ要ス郵送ハ別ニ壹ヶ月ニ付金拾參錢

廣告 五號活字十九字詰 一行一日金拾錢 三日以上金七錢 五日以上金五錢 特別同 金貳拾錢

發行兼印刷人 葛生修吉
編輯人 段塚讓
韓國釜山港大廳町廿七番戶 發行所 朝鮮日報社

論壇

戰局の樂天觀を戒む

戰局の達觀を市井の徒に望まんは難しきながら旅順陥落の今日に於て將來の戰局が如何に變轉し行く可きやと苦慮するは軍國民の重大なる責任に屬す、日本勝つたゝ露西亞負けた、旅順陥落られて露西亞敗けた、と歡呼喝采して日露の大戰局は旅順の敵艦が遂に閉塞せしが爲に全く我勝利に歸したるか如きの樂天觀を抱くものあらば是れ實に容易ならぬ次第なり、人あり餘に相會ふ曰く、戰爭はどうなつて居なでせう、さあどんな工合になつてゐますか新聞もあんまり出て居ませんやうですな、斯くの如く泰平にして居る迹中が此山居留地内に在りとは由さぬど若しありとせば由々敷大事なり、我國家的大決斷に於て社二の安危を賭して其の精兵空しく朔北の野に斃れつゝ將又士氣來の勢ある大敵を迎へて猛烈突戰を爲しつゝあるの今日、戰爭がどうなつて居るだらうかと假令へ心よ思つても國民として之を口に出すを恥ぢざるの徒あるが如きは是我國家の慶事に非ず況んや旅順の敵艦既に殲滅せるも東行の波羅的艦隊は幾回か後繼艦を派せんと擬し、其艦隊を傳へられ其戰鬪力不足を評せらるゝ事實に於ては漸く東洋の領海に近づきつゝあり、其旅順陥落の第一要義たる給炭の事に其中立違反の行動を敢てしつゝあるの事實は最早掩ふ可くもあらず、而して露國の政策は變幻出沒にして頗る測る可らざるとは言へ其東航を信ずべきの現象が其召還さる可きの風說よりも事實となりつゝあるを見ずや、然らば我海軍は更に大なる戰鬪區域内に於て再び大活動を要するもいと覺悟せざる可らず、其勝敗の如きは敢て發棚を要せざるとは云へ兎に角に戰爭は遠く可らざるが如し其戰爭の後援者は誰ぞや、日本勝つたゝと絶叫する者や、戰爭はまだお終ひになりませんやろと泰平して居る迹中では國民的の後援は少々六ヶ敷と見受けらるゝ也。

予豈に戰局を悲觀するものならむや、而も徐りに樂天的なるを戒むるが爲め此言を爲す、旅順の陥落を祝する爲め歡極りて狂するも好し、年前の端を一日賭したりと思へば一時は狂喜するも好かる可し而も其裏面に於て戰局は將來どうなるであらうかと云ふ念をつゝむわかを忘れず、常に我國の最後として義勇奉公の心掛を失はざらん事をこそ希望する所なれ、予豈に戰局を悲觀せんや、而も世の樂天觀に過ぐるものを戒むる事此の如し（湖）

戰局觀

滿州露軍評（一）

米國通信員エマーソン氏の

米人エドウヰン、エマーソン氏は昨年九月末の頃旅順の封鎖を潜つて出入せるを以て有名なる通信員なり今東京に於て發兌せる實業の東亞（第十一卷第一號）に掲載せる『滿州に於ける露兵の失態に關するエマーソン大佐の評』と題せる英文を譯出して滿州に於ける露軍の真相を知るの一端たらしめんとす。エマーソン氏と予とは嘗て佐世保に於て相知り其發程前に於て交はり氏が露軍に從軍せし頃より旅順の封鎖破りを成功せし當時の状に至る迄親しく聞きたる事ありたる爲め今此文を譯するに當りて多少事實を附加したる處あり。予が氏との會見に於て感じたる外國通信員の舉動及特に通信員として氏が一種特得の技量を有するの點を紹介せんと欲する處のものは更に稿を更へて他日に讓らん。（黑湖生譯）

予が（エマソーン氏自身を指す）露軍の失態を說かんとするに當りて先づ讀者の諒解を請ふものは余は今假に露國側より之を言ふものにして日本側より觀察したるものに非ず亦之を世界的にせしにも非ず。

人類の德義上より言へば旅順口の防禦の如きは既に其陥落す可き遙き以前より疑ふ可らざるものとなり居れるに拘らず最後迄頑強の抵抗を爲せしは單に莫大なる人命を賭したるものたるに過ぎずして是れ露軍の大なる誤りとす。

此點より言へば黑鳩將軍が旅順口の恢復を劃策するは大過失なりと言へるは決して過失と云ふ可きものに非ずと信ず

此の如く露國政策の失態として世間に知らるゝものゝ亦實に其過失に出でたるもののみとは言ふ可らず。普通道德の見地より觀察せし者は日露開戰前に露國が滿州撤退の約を履んで平和の繼續に盡せざりしは大なる過失なりと云へり、此の如きは予が米國現大統領ルーズベルト氏及外務卿ヘイ氏其他有力なる米人に聞ける所のものなり。

然れども政治家なるものは別して世界的の外交政策なるものは徳義問題と何等の關係なきものなり。獨逸詩人の歌ふを聞かずや「一盃を盗むは賤しめられ、一國を盗むは偉とせらる」と。

夫れ外交政策に於て普く罪惡なるものは單に其奸策たるを發知せられ之に報ひられたる時に於て始めて失態とも過失ともなるに過ぎず。故に露國が滿州を獲取せんとせし事實も露國側より言へば是れ失策に非ず過失にも非ざるか如しと云ふを得ん。

那翁や稗翁の所謂る眞正なる外交策の標準に照さば北清團匪事件當時に於ける露國の滿洲經營は是れ外交術に於ける巧妙なる天資に出でたるものと云ふべき也。斯くて露國は西比利亞及滿洲鐵道の速成に對し巨額を惜まず且つ中立港たるべきものを自家の領港に變せしむる爲に非常の急激手段を採りたるなりき。此の大膽不敵と其着手の敏速なりし事は其成効を收め得べしと信せられしが其設計細目の實施に至りて及び其利權を保留するに至りて例の背道德の觀念が再び日常の些事に迄現出し來りたるか爲に遂に今日の失態を來せる原因たる多くの大失態と化し終りたるものなり。斯くて若し戰爭の結果として露國が滿州を失ひたりとせばそは一年は露國が滿州人を壓制せし失態の爲にして一半は日本の武方の成功に歸す可きのみ。

（譯者曰く氏の論旨は露國が滿州を得んと欲せし慾望は外交政策の上に於ては寧ろ咎む可きに非るも其施設を誤りたるは遂に今日の失態を來せし所以なりと云ふに在り。以下其失態を列舉せる處頗る參考とす可きが如し讀者幸に次回を讀め）（つゞく）

近古史料

今昔の感（二）

（對州に於ける露艦暴狀事件）

（犬東彈吾氏談、社員筆記）

若手の面々は露艦の放逸に出でたる請求を憤りて一樣に鑑標を拒絶すべきと絶叫した、食糧用水は、當時徳川幕府の通商條約により給與せざるを得ない、是れを條件として退去を迫つた、彼は固より船に目的を有せるを以て之に應じない、彼か唯一の主張は、航海が出來ぬと言ふのであつた、這に於て朔氣の人々は共に露艦に乘り込んで目的地長崎迄同航すべく、萬一不幸沈沒することならば、露艦と死生を共にすべしと普て、彼が航海は差支なき事を事實に証據立たから彼は理に於て究きた、然れども露艦の使命は、遂に暴力である、彼れは顔然として退去をなさゞるのみならず、却て荷物の陸上げに着手して修繕の場所を選定し初めた、一層騷然として、排敵の氣は、銃火を含んで、將に彼の頭上に飛ばしめんとしたのである。

當時縮老に七位孫一郎と言ふ人があつた、壯士の面々か血氣に逸つて、萬一騷動を惹き起さば、忽て國際關係を生じ、彼が術中に陷るべきを慮り慰撫太だ勉めた、然疑を衝く旅の憐憫の士も縮老か懈誠の苦心を諒しては、自家の主張をのみ爭ふ譯には行かぬ暫く一任して折衝の間を傍觀する事とした、縮老は露艦の請求の遂に遲る可からざるを諭念して、修繕を許すおどとした然いせる彼の望む處は、甚だ意外である、艦に修繕を目的とすれば、我の指示する場所に於て、毫も異議なき筈である、彼は此の指示に應せざるのみならず、如況右の三ケ處を指定して必ず上陸すべく脅迫した、

第一深浦 第二玉敷浦 第三芋崎浦

是れ殆んど言懸りである、無理難題である、縮老は斷然之を却げて互に主張を讓らない、斯く推問答する間に其月も末となり廿八日に至つた、突然露艦一隻更に入港した、此時分は、數回艦内に出入して、稍彼等の言語動作を辨するあとが出來た、が、其入港した實際の彼等の容貌は、非常な者で、哭するのかと思はれた、飛ぶ跳る踊る、舞ふ手の舞ひ足の踏み處を知らぬとは此時の狀を言ふならん。

他の一艦入港してより彼等の態度は、俄然として一變した、初めは、すべての態度、應接頗る懇懃であつたが、其翌日より、嚴然として、對敵の動作を示した、我が開狀師、通事は勿論見付役書記と随意に船の出入を許したおが、今は一々詰問してドーシテモ入れぬ、三十日の朝であつた、例の通り、幾岡開狀師は、艦長を訪ふたが、氏と通事との二人を艦長室に導いたまゝ、自分等は甲板上に待たしめられた、サレド開狀師の事が、氣懸り故、無理にも這入らうとすると彼は入れずと爭ふた、果ては互に、腕力に訴へんとした刹那、俄然、ジャミシャ一と自分等の額と言はず、体と言はず恐ろしき力を以て、彈き出すものがある、忽ち全身濡れ鼠の如く海水を浴びた、頭より、顔より、体より、滴る、車軸の如した、不思議、不思議、一同呆氣に取られて呆々然徉々然、中には一二人は海中に跳ね飛ばされた、其狼狽加減、其滑稽加減、今から思ふとドーシテモ、噴き出さずに居られぬ、夫れはポンプを以て、海水を濺がれたのであるからだ、自分と同役の中安達岡之助と言ふ老人があつた、頑强一點張りの武士氣質で、斯くと見るや、勃然として怒り、濡面火の如く、已れ無禮と言ひ樣、大刀に手を掛けて、アワヤ切込まんず形勢であつた夫れと見た久和作助と言ふ同役は、抱き留て之を止め先づ〳〵事なきを得たのは、幸である、此の出來事あつてより、壯士の面面激昂大方ならず、復讐に船艦を襲はんとしたのを之を鎭撫せる老人共は、一通りの骨折りでなかつたらしい

社告

●本紙の特色

社說 本紙は韓國の實物を明かにして内地人の誤解を釋き併せて在韓同胞の爲めに我國力膨張に伴ふ可き適切の措置を誤る無らんことを勸むる爲めに公平にして愼重なる言論を爲し以て我韓國民の對外策に資する所あらんとす

寄書 本社は在東京及東洋の各要領に散在せる我社友は勿論當時有名なる各專門家に囑して其寄稿を乞ひ天下有識の士に賴して親く其警咳に接するの思あらしむ

實業調査 此は是れ吾徒全力か尤も其力を致さんと欲する所にして内外貿易の趨勢、韓山内地の起業に關する新着報告を詳述せんとす

小說文藝 吾徒は此欄に於て韓國に於ける從來の朝鮮小說を飜譯紹介し韓國の人情風俗を活寫すると同時に文中の固有の名詞及地名其他注意す可き語句は特に振假名を以て韓音を現し語學獨習の便に供し以て一異彩を放たんおどを期す、其他内地作家の小說講談等を連載すると歟米新奇の小說類を譯載す可きは勿論也

諺文週報 韓人の無智蒙昧ゑして很かに數ゆ可らさるは言を俟たす之を開發誘導する爲には新聞紙を以て文明の風潮を注入せさる可らす本社は本紙の整理を俟ちて如上の附録を添ゆ

各地通信 本紙は尤も豐富なる通信機關を有するを以て微かに誇るものあれ東京電報に由りて内外の大勢を敏速に報道するあど及び内外各地の通信によりて詳細の記事を蒐集し得可きは勿論當釜山と尤も密接の關係ある長崎門司佐世保博多對州及び京城仁川元山木浦群山大邱馬山平壤鎭南浦義州安東縣芝罘營口天津等よは已に夫々專任の通信員を囑托し置きたれは各地に於ける大小の出來事は盡く本紙の記載に漏るゝこと無かる可し

商况 本紙は專任の商況記者を有し釜山よ關係ある各要港乃商况を報道するを怠らす

本紙の体裁 本紙は内地の各新聞と同形なる十六頁形にして總振假名附入なれは此點よ於ても在韓の全業者に一歩を進ち得たる者と信す

俳壇

○年改りて浪華の津を去る時　香洲

初東風や舞子の濱の片帆影
町に來て江南の梅の噂さ哉
畑打の旅順落ちたと話しけり
明石潟朧夕陽に浮び鬼
流車去ぬ舞子の驛の松の風

○某地の友が失意を憐み　仝

折るゝとも咲きまむ庭の梅
東風吹くや裸男の庭掃除
まだ寒き都の空の春なるに
凛として梅一輪の匂ひかな

（春の句及戰爭雜吟を募る）

翻譯小說

佛蘭西騎兵の花（一）

英國 コーナンドイル作
日本 梅村殿士譯

◎幽鬱城の探險

那翁の軍隊にて騎兵將校の世良田一雄と云へば那翁から一番寵愛を受けた者で佛國の軍隊否な當時那翁と戰爭をした諸國の軍隊で其名を知らぬ者がないと云ふ程の有名なものであつた。

世良田が未だ騎兵中尉の時の事である。此時分の青年士官は未だ澤山の人や馬の監督をせなければならぬと云ふでは無し。最上官の樣に戰爭に向はないでも頭分白髮の增へる程の心配と苦勞があるではなし肩の上のイポレット一つが身の飾りである中尉が大尉の身分であつて見れば實に氣樂なもので馬に泡を吹かせたり長い劍を敷壺にがちやつかせたり酒の盃を持つて天を仰いだり美人をからかつたりする外には只もう壯快なる生活をしたいと云ふ念より外浮ばないのである。

丁度此時代が種々の冒險談の材料を作り出すので世良田中尉が幽鬱城と云ふ不思議の場處に近衛と云ふ少尉と二人で行つたのも矢張り其時代の青年士官には珍らしくないのであるが其出會つた活劇が頗る慘憺たるもので且つ大冒險であつたから此世良田の經歷を話すのを其發端としやう。

頃は那翁の大軍が露國の境に攻め入つて居た時で善田少將の率ゆる四百騎の輕騎兵がプラシヤ領から東部波蘭土に進軍する命をうけた時で世良田中尉は其隊の副官であつた。此時佛國の大軍は露領の寒氣に苦んだのとエイラウの大激戰があつた爲に輕騎兵の第十旅團は殆んど悉皆步兵とならなければならぬ姿であつた。其爲に善田少將と世良田副官は其引率せる新鋭の一隊が頗る歡迎を受くるであらうと信じて行くのであつたがどうも其進軍が思はしく進捗なかつたそれは雪が深いのと通路が險惡であつたのとそれと馬糧が欠乏してゐたから步兵の進軍より尚遲い速力しか出なかつたのであ能く小說本なぞには騎馬が餘り敏捷な行進をした爲にぐるりと廻つて元の所に出たと云ふ事が書いてあるが。世良田中尉は既往十二回の實戰に臨んだが、其引率してゐる大隊は敵前に迫る時も平時の步調と少しも異なる事が無いとの事が頗る隊の自慢となつてゐたのだ。

世良田中尉は極々馬好きの士官であつたからして今四百頭の異つた年齡、毛色のそれから性質の軍馬を自分の指揮の下に引率して行くのであるから實に愉快で堪らないのであつた。

まで話が大分横道に外れかゝつた。が是から本文に探りかゝると。世良田中尉の一行はマリエンウェルデルを越へてビスチコウを過ぎライゼンベルクまで到着して此所の郵便局に合宿してゐると突然善田少將は一葉の開いた手紙を持ちながら世良田の室に這入つて來た。

少將『世良田貴公は今から本官と離れなければならないぞ』

と云ふ顏には頗る失望の色が見えた。世良田は其老少將と別れた處が一向何の殘り惜しい事もないから此お世辭の樣な挨拶を聞くのを何とも思はなかつた。而し只無言のまゝ敬禮をすると。少將は言葉を次ぎ。

『先は羅營大尉の命令での。貴樣は今から直にロッセル村の方に進んで聯隊本部に報告しなければならない事があるのだ』

世良田は此役目を受けた程此場合よ喜ばしい事はないのである。自分が上長官から特に指名されて此の大任に當るのであると思へば何處に氣持が好い。此不意に自分を聯隊本部に送り歸すと云ふのは羅營大將が自分の聯隊には世良田と云ふ中尉が居なければ充分の活動が出來ないと云ふ事を信じてゐるゝであらうと思はれる。誠に好都合ば愉快だ〳〵と世良田は心中に思つた。

朝鮮日報

社説

吾人の朝鮮經營策（三）

（我の保護國なるか將た屬國なるか）

朝鮮を我保護國とせん乎否な屬國たらしむ可き乎否屬國の名無くとも其實を擧ぐ可き乎否保護國の名無くとも其實を擧ぐ可しなど喋々論議する識者頗る多きを見るも彼等は實に根本的の大解釋を忘れ居るが如し、何ぞや、朝鮮は實に既往に於て我保護國たるの實あり、詳言すれば日清戰爭は朝鮮をして獨立せしめんが爲に我兵を動したるが原因なり、日露戰爭は滿韓の山野をして露國の有たらしむるを阻ぐが爲に崩せるものにして、我邦は絶へず朝鮮の獨立を保護して兵役の勞を負ひつゝ更に淸國をさへ保護して其領土を保全せしむるを力む、此點よりと云へば我は東洋各國の保護者にして今更ら朝鮮が我保護國に非ずと云ふ者は我既往十年間に於て三回迄も大[illegible]上は派したるを何の故とも解せざるの蠻なり、我を露國の如く外邦を侵畧する者と同一視する者也、朝鮮の我保護國たるは此の如く既に實行せられ居たるものなれば其保護の目的を達したるのみならず之を文明の域に誘導するを力めつゝあると今日の如くなる以上は我邦は當然朝鮮に向つて其報酬を求むるの權利あり、之を明らかに汝は我屬國たる可しと宣言せんは之れ他を排して我有と爲すの非行なるも彼は我戰に頼つて其獨立を保ち其進歩を計らざる可らざるものなれば云はゞ父子の關係師弟の情誼として我に對して其恩義に報ひ其費用を拂はざる可らず、而も我日淸戰役より今日の滿州陣に費せる處の資幾許ぞ、失へる生靈幾萬ぞ、我內地の人民は今や極度の重稅を拂つて此要求に應じ最愛の壯丁を放つて軍旅に從しめつゝあり、謂ふ勿れ是れ我日本が大陸膨脹の必要より此大戰役を釀したるものなりと、斯くは是れ偶然の結果のみ、淸韓の獨立を保全せしむるが爲に此國と宣戰したるの結果偶然の勢として茲に滿韓經營を促したるものなれ。

此の斯く朝鮮は既に我の保護國なりき、而して將來亦た其の保護より離る可らざるの因緣とはなれり、況んや我は其爲に報ひ其恩に酬ひざる可らざるもののあるが爲に、否將來益々我の開發誘導を受けざるべからざるもののあるが爲に、我との關係が父子師弟の關係を有するものたるべきは言を俟たず、然らば之を保護國と名付くるも屬國と名付くるも其名義に於て深く異なるに非ず、要するに我邦は受くべき當然の報酬を要求するの權利あり、之を朝鮮經營と名付けば名付くべし、其名をのみ探るに非らず其實を擧ぐるにあり、吾徒が朝鮮經營を論ぜんとするに當り先づ此重要問題を明かにせず、吾徒必ずしも朝鮮を以て我屬國と云はず、而も其實に於ては或は然るものあるに非るかと怪むを禁ぜざる也。

東京電報

●陸軍中將の新任

（十六日午後三時四十分發同八時八分着）

陸軍中將小川又次、川村景明の何れも大將に任せらる

●學務顧問の招聘申込

（全日四時五十五分發　同　時十分着）

韓廷より學務顧問招聘申込ありて目下人選中なり

●密輸船二隻の拿捕

（全十八日午後二時三十九分發　同　時　着）

昨日我軍艦對馬海峽に於て密輸船二隻を拿捕せり

●敵の左翼活動す

（十八日午後五時二十分發　同　八時三十分着）

敵の左翼漸次東方に延長し懷仁通化方面に約三千の枝隊あり城廠方面に約二萬あり

●牛莊附近の戰鬪

（同十八日午後三時十四分發　同　八時二十五分着）

滿州軍公報に曰く牛莊に來襲せし敵兵の中に多數の淸國官兵混じたるものあるを見たり十六日敗退の敵は約五六千ロウトギウロタを經て東北に退却せり我騎兵枝隊は之をゴウダ附近にて衝突し敵の上衣は支那服にて疲勞を極め居るを見る

●又々密輸船捕獲

（同十九日午後二時五拾分發　四時三拾分本社着）

昨夕對馬海峽に於て石炭を滿載せる英船オークリー號を捕獲せり

雜報

元山通信

（一月十四日發信）　元山通信員　長白生

●如女水山鬪兄朝鮮日報を新たに釜山に於て刊行せらるゝに付て元山方面の通信に當らしむと云ふ余不文敢て當らずと雖も如今元山にて發刊せる元山時事新聞『若し新聞と呼び得べくんば』によりて北韓方面の近狀を世に傳へらるゝも今や朝鮮日報に通信せらるゝの多きあるを信じ水山兄の好意を甘諾して爾今元山通信を草して朝鮮日報の愛讀者諸君に見へん ▲年改まり戰局愈々急迫するに探險談あらせられし元山居留民は元山の警事を祝するに於て從來元山居留民は此の敬愛なりしは獨り當地の狹く人口の少かりしのみならず是て當局者の意を用ふる深からざりしは甚々か如き

▲四日に居留地官民の主催になれる祝捷會あり五日には守備隊長の發企せる祝宴會ありて爾來寂寞又舊狀に復せり

▲戚興の近狀を聞くに北地駐屯の軍隊は五日盛んなる祝捷會を催ふしゝ由なるが昨今商況不振のため在留する邦人の元山に歸還する者續出するの狀を呈するとか兎角進取の氣象に乏しき邦人ふは誠に詮なき次第也

▲十日洪原にて彼我斥候隊の衝突あり我に僅に一人の微傷者を生せしのみにて露は將校一名其他八名の屍體を遺棄して退却するの敗狀を呈し我軍には種々の鹵獲品を收用せり蓋し新春第一の北韓に於ける勝利なり

▲昨今の商況依然として不振なるも大豆の相場本邦神阪地方にて稍騰貴したりしため彿々入荷するもれあり汽船の回航も頻繁となれり

▲大阪商船は愈々一年振りに大阪元山航路を復舊し來る十七日を以て其初航を始むる事となりぬ而して郵船は當分廻船せずとの事なり。

▲最後に一の珍聞を紹介すべし一昨年元山時事新聞が始めて元山に生るゝや間もなく監理尹氏の妻君同伴出帆するを記するに乎監理は閑雲を伴ひ云々にて一時閑妻新聞の噂ありしが昨今又大木領事令夫人千賀子讓は恤兵部へ何々を獻せり美擧の事と云ふべし及び其社告に追々休刊いたし候云々或は本年に入りては何とか云ふ記者の入りたりと云ふに皇太孫御降誕云々の記事さへありこれでも新聞かと人の嗤する者あれど愚篡珍聞に外ならざるべし

晉州通信

（十七日發）　通信員　山本生

目下當地に於ける本邦人在留者數は戶數六戶人口十四人にして其數二十人に達したる曉には馬山領事館より巡査を常駐せしめ保安の任に當らしむる筈なりと云ふ ▲在留者の營業別を大別すれば雜貨商五戶、雜穀兼穀物商一戶、外に藥商二戶を有す ▲此內大津商店は雜貨兼穀物商を營み最も盛大を極め居れるものゝよしで昨年三四月頃の開店に係ると云ふ ▲雜貨類の重要なるものはタヲル、手拭、錻、燐寸、石油、紡績糸、木綿、金巾類は期節柄最も多く取引されつゝあり ▲韓人間の金融は圓滑に行はれつゝありうは昨年度の豐作なりしが爲めなりとす ▲今市は陰曆十一月十五日に始まり同下旬に終りを告げたりしが例年に比し景况稍々宜しき方なりと ▲韓錢相場は釜山より大邱商店へ毎日電報到着し居れるを以て在留者は何れも同相場を標準となし居れり ▲田舍地方にて近頃浮浪黨の徘徊するもの諸所に聞ゆ旅行者の警戒を要す ▲當地賣錢は一里に付百二三十文換算其平價位なり

大邱通信

（十八日發信）　入公主人

▲大邱の在留民　同地の在留民は鐵道開通後日に月に增殖し目下男女併せて八百以上となり猶ほ益々增加の傾向なり日ならずして京釜鐵道沿線中唯一の新日本町となるや期して待つべし韓政府も之に伴ふて大邱の經營に着手すべく又資本家も韓地の港口ばかりに目を着けず大に是等新日本町に向つて商線を擴張すべきなり

△大邱居留民會と刷新會　大邱居留民會は豫て紛々を極め之が爲め刷新會なるもの起り民會の刷新を企てしが斯の如くなりては居留地前途の平和發達を却て害する無きやの懸念あり此間に立ち相方の停調を圖るものあり民會の方に於て此際現評議員半數の改撰を爲して刷新會の有する意見を可成用いて積極的民政方針を執ると云ふなどゝなり略ぼ平和の局を結ぶあごとはなれり是が結果として德久會長は斷然辭職し有給にして新に相當の人物を會長に迎ふることゝ云ふ

●千葉縣移住漁業者の出發　馬山浦移住を企畫中なる千葉縣漁業監督者吉野文吉氏一行は昨日當　　にて漁船に塔乘馬山浦に向け出發したり

●長承浦移住漁業者　水產組合にて經營せる巨濟島長承浦漁業根據地に目下移住し居る漁業者の數は和歌山縣三戶、長崎縣一戶なるが更に之れに加はらんが爲め愛知縣漁業者中村幾次郎外二名は妻子同伴の上作日漁船にて渡來したり

●一年志願兵　一年志願兵は寄留地に於て檢查を許容せらるゝに付往々誤解を生じ居留地苑館出づる者ある由右は日本內地の寄留地を言ふ者にして居留地を意味するに非らざれは志願者の注意すべきなり

●徵兵檢查　自今韓國居留民の徵兵檢查は京城軍司令部に於て施行する由適齡者は全所宛屆出づべきなり

●埋築會社の現況　埋築會社第一期工事は昨年十二月に於て完成し目下第二期工事中にて是も本月二十日終了の見込なる由今佐藤支配人の語る處を記せば左の如し 第一期工事總坪數は三万千七百七十四坪余內道路は七千七百十六坪にして內賣却濟は一万二千九十二坪一坪平均賣價五拾圓に當れり目下の賣價は平均七拾圓劣等地は特別相談に應ずべしと而して氏は埋築地の將來に就て曰く京釜鐵道落成と共に海陸接續地は益す〱有望なれは地價は從て騰貴すへし現に京釜鐵道敷地に五千坪程賣渡し內金拾万圓を受領せり又同鐵道會社に於てヂャンク船の碇泊所設計中なれば同時に理令の定泊所を第二期工事として埋立に着手すべし本社の資本金は三拾五万圓なりしも既に支拂濟目下は社債及貸却金を以て支辨し居れり ▲埋立地重なる買得者は鐵道會社五百坪（是れは特別價格）民役所三千二百二拾八坪（是れは特別先權利及ひ墓地の土と交換的に原價より低く一坪拾二圓にて賣渡し金三万八千七百三拾六圓は受領濟）其他商船會社郵船會社郵便局日本內地人は横濱及門司の人重なる方也

●倉庫會社の現況　倉庫會社は委託品多く目下狹隘を告げつゝあるが最近の現況（堆積品）は左の如し

米（預）（前月より繰越を含む）　五〇、四八六（出）一、〇六九
大豆（預、）　三六八（出）九〇七
小麥（全　上）　（出）二〇〇

亦前二年の收益を對照すれば左の如し

卅六年上半期（自一月至六月）　九六四、六三〇
全　年下半期（自七月至十二月）　二、九三五、七六〇
卅七年上半期（自一月至六月）　三、七七、一七〇
全　年下半期（自七月至十二月）　一、三六六、八一〇

重なる委託物は三十六年より全三十七年上半期迄は米豆を第一として韓錢之に次げるが目下は米穀類のみなりと云ふ

●兩精米所の現況　釜山精米所目下の搗揚高は一日五十石にして當港の需要に充てつゝあり所員としては器機部に本邦人四名を置き其他には韓人を使用し居れり ▲日朝精米所馬山浦の支所は目下精米器六臺を設置し今地附近の需要に充てつゝありと ▲因に本所の精米所は當港の需要に充つる外、鎭海灣を初め元山津等に輸送さるゝと云ふ

●京釜驛長の談　京釜線の隧道は大邱、新洞間のが一つ丈で他は未だ着手にも至りませんが追々旅客も增加する樣になるから時間も詰めねばなりません、時間の經濟は扨いて線路の直通を計らねばなりませんが現在の線路は頗る迂曲して居るから勢ひ隧道工事を實施せねばならぬ、右の迂曲線を除く爲め二ケ所の隧道を開通する必要がある此は追々着手するでせう ▲現在の旅客は韓人が最も多數であるが近頃京城を初め各地に赴く日本人が多くなりました、是れと共に淫賣婦の旅客が非常に增加した樣で殊に昨今は非常に多い樣です（釜山地方の淫賣婦なるも又本國よりの密賣なるやとの記者の質問に對して不明ぬ旨を答ゆ）▲車輛其他は一切米國流に新通したのであるが勾配の個所が頗る多いので當分規定の時刻通り運轉出來兼ます ▲貨物は昨今少なく減少して居りますが各地の交通頻繁なるに隨ひ增加するは必然です ▲各停車場の設子も大部揃つて參りましたが、旅客の要求には大概間に合ひませう。

●密輸船拿捕と神代丸　昨日午後八時二十分下の關を發し本日午前八時四十分當港に入れる神代丸船長は東電の密輸船拿捕に關して語りて曰く本船は昨日午前三時より五時に至る間に於て對馬海峽を通過せるも何等の異狀を發見する能はざりき又航海は頗る靜穩なりし云々

●野尻視學官の來韓に就て　文部省視學官全氏は韓國敎育視察として出張を命ぜられたるが其重なる要件は、當港小學校燒失に付再建築の協議に與るべく先づ釜山に上陸夫れより京城方面に赴く由也

●滿韓經營實業學校　當居留民は日に日に增大し從て中等敎育の普及を必要とする聲は識者の間に唱導せらるゝ處なるが右に付民長を初め當地有力者は見出の如き學校を設立せん計畫にて目下調査中なりと

●小學校長後任說　元當釜山小學校長たる國井泉の後任は未た未定にして校長事務は平田助役擔任し居るか右は文部省視學官文學士野尻精一氏の來釜の上ならねば決定せざる由た聞し

●常議員會　本日民役所內會議所に於て常議員會を開けり重なる議案は左の如し

第壹號　支出金變更の件

第二號　假敎場借料議定

一商業會議所全部　一弘道舍
一東本願寺　一西本願寺
一高野山　一知恩院

第三號　土地買收の件

北濱町二丁目より埋築地に至る道路迫間房太郞所有地六十八坪六合七夕

第四號　埋築地接續道路修繕費議定

條繕費八百拾八圓九拾錢內四百拾四圓四十五錢埋築會社負擔殘は居留地負擔

第五號　埋築地內道路及下水築造費議定の件

釜山埋築會社より受領せる埋築地內に道路及下水を築造し隣地と道路及下水の貫通をなさしむ

第六號　本金は居留地積立金より支出校長に慰勞金を贈る件

其他二三の少事項なり

●居留民會　別項常議委員會の議事終了と共に居留民會を開くべく其期日は多分廿二日なるべしと云ふ

●田內書記の免職　居留民書記田內氏は一昨十八日願に依て職を免ぜられたり

●釜山禪宗敎會の回向　當釜山禪宗敎會にては主任仲井育保氏を初め同敎會員一同去る十六日より毎夜午後十時を限りとし各戶に付き讀經回向を爲しつゝあり其の主意とする處は右の回向に仍りて募集し得たる金額を纏め海陸軍恤兵費として其筋へ獻納する由にて來る二月三日を以て終了すべしと云ふ

●船客の減少　京釜鐵道開通以來仁川當港間を初め其他の航通汽船乘客一般に減少したるも現時に於ては京城の整理未だ結了せざる爲め規定時間の乘客を見る能はざるに依り影響甚だしからざるが同鐵道にして全く整頓したらんには非常の影響を來たすべしといふ

●大有丸船長の談　昨日午前〇時仁川を發し昨日午後八時五十分當港に入れる大有丸船長村上文一氏の談に曰く航海平穩でムいました仁川の景氣は別段變つた事もない樣です貨物の集散は增加して居る樣に見受けました京釜鐵道開通以來船荷物は非常に缺少して居りますが未だ全鐵道の整理附かぬので貨物の如き自然規定の日數中に運搬が出來ぬと見ば汽車便を斷して便船に托した荷客も多い樣でございます云々

●支店長交迭披露宴會　大阪商船會社當港支店長石崎、小平兩氏交迭披露會は去る十七日午後五時より鳴戶樓に於て開催し當地實業家、新聞記者等を招待し頗る盛會なりしが一昨十八日は更に領事館其他公衙吏員及銀行員、會社員、朝鮮官吏等を招き同會を開き兩支店長の挨拶、有吉領事の來賓總代の答辭ありて宴に移り是れ亦た頗る盛會にて同十時頃散會せり

●大連灣上陸者の注意　淸國大連灣へ一方面旅行者は其旅行免狀を受くるに通し任々領事宛差出す者あるか右は直接陸軍大臣の許可を受くべきものなる由につき注意迄記す

公私來往

▲大倉組員　田沼大吉氏は一昨日京城より來釜大池旅館に滯在中

▲朝鮮協會理事　望月龍太郞松本武平の兩氏昨日京城より同上

雲烟過眼

△開城　後のゝ將軍兎角の批評あるも鷄城中の勇將たるを失はず我乃木將軍の勇烈は史上無二の偉勳獨帝の贈勳は時を得たり

△士卒　困憊疲弊生色なきに反して多くの將校は血液充分談話快活動作輕捷なりとは稲佐に於る旅順の捕虜此等が露兵の得色

△歐米　に貴間論勢力を加へ英二分米四分の排日者あり當局無能何等施設なしとて元老の非難ありとは共に無實の風說ならん

△牛莊　來襲の敵の淸國官兵を混したりとは我公報の示す處其無謀大膽驚くの外なし彼屢淸國の中立を破る最早許すべからず

△二〇三　三高地の占領に大勇名を轟かしたる今機山小川將軍大將に親任せらると吾人は滿腹の欣榮を以て兩將軍の勇健を祝す

△良人　なくば統一なき露には今日迄支持し時ず夫人なくば我は籠城に堪へざりしとはス將軍夫妻の歎天下、時の總氣と言へ

△旅順　の籠城ゝ父母を喪へし少女四名長崎に在り可憐の狀人をして轉悲腕の情に耐へざらしむと嘸誰か此慘狀を現ずる者が

●韓錢相場（一月十四日）

朝鮮日報

社告

弊社今般本紙發行致に就ては大方諸君の御賛助を辱ふし難有奉謝候然るに本社創立早々活字器械等未だ充分に整理不致從つて豫定の附録頁數を減少するの已むなきに至り且つ紙面の體裁未だ完備不致記事材料の蒐集亦意の如くならず之に加ふるに各地の通信尚ほ到着せざりしは頗る遺憾に之有候夫々本社支局の儀は左記の箇所に設置をるとに準備罷在候

●京城、●大邱、●下關、●馬山浦、●實捌所の儀ハ朝鮮各要地に設置致す筈に候へ共目下の處●大邱西門内朝日商會に於て取扱はせ申す事に致し候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

社告

弊社儀今般印刷部を開始し洽く印刷物の御注文に應じ候間多少に不拘御申附け被下度候

追て御注文の節は御一報次第社員罷出御用向ひ可申上候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

小説　戰勝（三）　黑潮作

今日は時技大機關士の實兄で京橋邊の某會社に勤めてゐる吉井楠三と云ふのが昨夜家の家事向彼是の相談相手にとて訪ねて來て居るのである、富子は心置きなき間柄とて居間に招じつ折りしも一人は學校に、一人は下女と共に買物にとて出て行きたる小兒の留主なれば涙ながらの話をして居るのである。

富子『どうもまだ義々戰死とは極まつて居ないですけれど、まさか良人の氣象であつて見ますと敵の方に捕虜になつて居やうとは思はれませんが、お話を承りますとまたどんな都合で生き殘つて居るかも知れませんけれど』

楠三『それがね、昔の戰爭なら知らないが今日は文明の戰爭だから敵も捕虜の待遇を知らない譯はないだらうからね、それに敵の方では亦我邦に來てゐる捕虜と交換になければならないからな、士官以上の者は特別の待遇をしてゐるだらうと思はれるよ、[illegible]

膚の姓名は直に判るよ　いや判る處か早く歸つて來られるんだよ僕はさう考へられるか、雄が生きてゐるやうに計り考へられるから、貴女が敵の靈位を祭ると云ふた時も彼輩に反對したでせう、待つて御覽、明朝でもすると、乾度當報で知らせて來ますよ』

富子『さうですと僕はどんなに嬉いでせう、小供も今では悉皆力を落してゐますので此間も鉄男がお父様はもう歸つては御出にならないと申すんで御座いますよ、あんなに移密にしてゐたんですけれど、縦組からか聞いて來つたんでせう、それに時があな文學校から聞いて來たんでせう看護婦になり度いと云つて貴下、全伴に來れと申すんでせうすると鉄男は自分は戰爭に行くんだから劍と馬と買つて呉れと云つて泣くんですもの鉄は一も泣かぬ日はありませんよ』

富子は亦もや袂を顏にあて、泣き沈めるを瀧兄の楠三は撫めかねて腕をあまぬる端を

何にか縛せんと思ふて居ると。折りしも下女と共に歸り來れる鉄男は常て已れを愛し呉れる伯父の來り居れるを知つて座敷に駆け來り。

鉄男『伯父さん、僕は馬が欲しいよ、けども馬を買つて呉れないから厭だ、お母さんが馬を買つて呉れると好いけれど、今も表を馬が通つて居るよ、伯父さん僕に彼の馬を買つて呉れないかね伯父さん』

と鉄男の膝に困じたりし楠三は幸の相手にとて鉄男を膝の上に抱き上げつゝ。

楠三『なんだ馬が欲しい、馬が欲しけりや今に山に行つて御覽、騎兵場の中に何頭でも落ちてゐるよ拾つて來てやらうかね叔父さんが……』

鐵男『あれは兵隊さんのだから拾つて來ると叱られるよ、僕は今表を通つてゐた馬が欲しいんだ、お母さん僕を買つてれよ。』

鐵男は俄に叔父の膝を離れて玄關に走り出で表口を窺きたるが彼の見たりし馬は早や遠く去つて見へないから、再び元の處に[illegible]



●膚だより　釜山郵便局の祝捷打揚後は郵三昇も減切も客足絶えて揚高に氣を採むは獨り樓主許りでは御座なく候有機なるに係らず目下の娼妓百七十六名、尚は増員の噂さ之れ有り候へば先づ二百といふ振込みも間近き事なるべく候▲電氣樓にては新妓二三名を抱へる準備に候が種は何れも對州產なりとの事に候▲安樂亭にて二三名を増員致さ其筋へも屆濟と聽き及び候▲神風樓の金次姐さんはイルボンといふ商號の某旦那と夢中となり電話電報文書といふあらゆる交通機關を利用しての浮かれ最中▲朝日樓の梅千代姐さんは例のヒステリーでボンヤに詰らんと四苦八倒▲三浦樓の加羅子姐さんは相變らず斗酒を冠りて大氣焰▲永福樓の永福姐さんは八百圓を鼻に掛けるので四圍の砲擊に苦戰の態に拜見罷在候例の賀も花もなき郵雀の史文右にて御免被下度候

何處も仝じ悲しき家庭、世は春なれど無情の砲聲は今も世間は戰雲に狂奔すれど招れ此家には主人の消息、其生死の確報がない間は否な其生存の報の傳はざる限りは春風の吹くべくとも見ぬのであつた。

鉄男『お母さんが早く買つて與れないから』と云ひつゝ泣顏をして母の膝に取り付いたのである。

●夜警組と命令の改正　當港西町の夜警組にて從來使用し來れる巡邏夜警隊は實際に低くして効能少なきに仍り目下改良中にて不日實施に至るべしとなり

●韓人の盗盗と夜警組　韓人の盗兒の多くは深夜に於ては目的を遂するに不利益なるを覺知し早晩に於て爲すものとなるが是れ即ち夜警組員及び巡查に捕へられたる際此家の奉公人乃至勞働者を稱して一時を偽瞞する策略なるが早くも組員の看破する處となり一層嚴重なる取締を實施したるこく

●昨今盗兒頗る減少したりといふ　京釜全線小驛中には未だ小驛と旅館の設置なきもあるにより旅客の不便少なからず機敏なる本邦商人の留意すべき點なりと具驛員は語れり

●牛肉スープの評判　佐須士官釜山罐詰製造所に於て其副產として製出する牛肉スープは滋養に富み且つ消化し易きの故を以て老幼病者は勿論平常衛生を重んずる者の宜しく常用すべき良品なりとて甚だ評判頗る高しと云ふ

劇場案内

●松井座　本狂言は引續き大江山實錄にて中狂言は神靈矢口の渡頓兵衛住家の段にて一座車輪の働きを見せる由其の役割は娘れ舟「中村愛助」將軍大浪下人六藏「岡本見八」にて本狂言は渡邊綱「中村格」賴光「本光三」藏宗「岡本見八」にて本狂言は渡邊綱「中村格」賴光

●幸座　は力士の玄門四ッ車大入水引摘五郎を本狂言に大詰として有家けいつ女臈

「美濃屋松榮」金時「中村三子」

魚市場（十九日）

當日は前日の降雨なりし爲め魚類の水揚甚多からざりしに係らず魚價以外に高騰したりし爲め金額に於て多額に達したり而して其最なるものは鯛六分を占めさわらあわび等之れに次ぎたり

又た右水揚魚類の販路は半數乃至十中の六分は京仁方面へ滊車若くは滊船△より輸送せられつゝあるものなり

水揚高

一金八百四十六圓七十七錢五厘

相場

たい	十貫目	十七圓
ぶり	同	十二圓
あわび	同	十三圓
さわら	同	十二圓
ひらめ	同	八圓
ぼら	同	六圓五拾錢

廣告

至急廣告

弊店儀從來買物帳を使用し來たりし處月來に至り仕拂の際買物帳へ記入以外の書き出しある事屢々發見致し候條爾來弊店の買物帳を持參し居らざる者には勿論假令店員たりとも掛買兼用に付き弊店に於ては一切其の責に任せざる事に候間此段廣告候也

釜山港幸町一丁目

園田時計店

電話二百十番

●新座敷披露　開業以來四方の御愛顧を蒙むり日に評判もみよしのゝ三笠く引手數多の御贔負に紅葉して御轉の言葉も彼や先き引に立田の久しく末の松やまかわらせない御引立を願ひまつるになん此度座敷新築せし數寄に拵へ新座敷は港灣に面し山水の景を一眸に收め新遊の御客をして四時の眺めに飽かしめざるは受合なりおき客様を鄭重に待遇し料理の鹽梅よく價低廉に且つ御注文等の者は一品たりとも差出さず之れ三笠の特色なり會席、仕出し、宴會等御料理に於ける料理の御注文お應諾々勉强仕候間倍舊の御奉公御用命被仰付度御願申上候敬白

うづら御飯	かき御飯
けい肉飯	ふなと飯
あいめし	あやこ飯
をつまむ	ゑび掛飯
茶碗むし	それしむし
す	會席御料理

三笠

本店の特色

確實・勉强・廉價

一洋　服　一ネヂフル　一トンビ

一インバチス　一布　團　一反　物

一雜　貨　一靴足袋　一チル

一メリヤス　一開化帶　其他いろいろ

本店は薄利を以て時好に相應し御客様の御便利を專一と致し候に付日増盛大に趣き候段難有仕合に奉存候就ては御愛顧に酬ゆるため一層大勉强仕候間多少不拘御用仰付られ候樣幾重にも願上奉候

釜山西山下町

思案橋角

阿部梅吉商店

齒科診察治療時間

一自午前八時至午後五時

但齒痛患者此限リニ非ラズ

西町三丁目卅八番地

深江齒科醫院

（電話二百五十二番）

活版印刷

日本堂

釜山南濱

回漕問屋

御旅館

釜山港本町海岸三階屋

中上旅館部

從前に倍し大勉强

東京直仕入

新新にして大流行品

はきもの

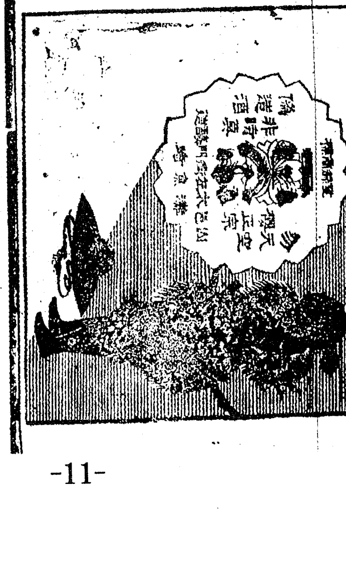
たび類

特別廉價を以て販賣します

内山商店

電話二五六番

上西酒店



提灯雨傘製造

西町二丁目五十二番

扛儀三郎

屏風フスマ

表具類一切

調進所

西町三丁目三番地

岡田松月堂

寫眞各種

釜山南濱筋

日朝寫眞館

家畜診斷

獸醫　中尾祐作

富平町十七番地（電話十七番）

西洋料理廣告

各位益御清福之段奉欣然候降て弊店共四方諸彦之御愛顧を蒙り日増繁榮仕有難仕合に奉存候然るに近來物價も騰貴に及び料理も延迄通りにては出來兼無余儀一品の價格金貳拾錢に相定め候就ては爾來一層念入風味精撰致候間何卒舊に倍し御引立之程偏に奉懇願候敬白

月　日

西洋料理店　辨天町　新堂（電話貳拾七番）

西洋料理店　幸町　小倉庵（電話百五拾番）

四方諸彦

釜山天氣豫報

西ノ風曇後晴　陸ノ警戒ヲ解ク

現錢　十七割二分

手形　十七割五分

出發時刻表

草梁	一〇	九.三五
釜山鎮		九.三二.五
水營		九.一一.五
龜浦		四.三四
勿禁		四.五六
三浪津		四.〇七
院洞		四.一六
密陽		四.三六
清道		四.五七
大邱		
倭館		
若木		
金泉		
秋風嶺		
永同		
沃川		
新灘津		
芙江		
鳥致院		
全義		
天安		
成歡		
平澤		
水原		
始興		
永登浦		
龍山		
西大門		